

令和5年10月

「スポーツの経済効果」は？

10月になって、漸く秋の気配も感じられる今日この頃です。プロ野球のセントラル・リーグでは、阪神タイガーズのリーグ優勝で、関西では大変な盛り上がりでした。21年前の2003年9月の優勝時には道頓堀への飛び込みで1人の死者が出ましたが、今回は警備の強化もあって26人が飛び込みましたが幸い死者はありませんでした。

10月のクライマックスシリーズは、天候が安定していれば、セントラル・リーグでは10月26日に決定し、日本シリーズの最終第7戦は11月5日を予定しています。

この月報執筆時には、阪神優勝(アレ改め)による経済効果が早くも試算されています。宮本勝浩・関西大名誉教授(78)が算出した経済効果(関西圏)予測は約872億2千万円と、今春の世界・ベースボール・クラシック(WBC)の日本優勝時(約654億円)を上回るとのことです。

因みに、他球団優勝時には、200億円～450億円と推計されており、ファンの多い巨人が優勝した際も500億～700億円ほどの経済効果を生み出すとされています。これは、やはり18年の久しぶり感によるものと考えられます。

また、10月のイベントといえばハロウィーンですが、コロナ禍前の2016年の経済効果は1,345億円と推計されていますが、渋谷区長の訴えでの「渋谷駅周辺に来ないでほしい」についても、韓国・ソウルでの事故を考えると納得です。



もう一つのスポーツの秋で忘れてはならないのは、ラグビーワールドカップでしょう。決勝戦は10月29日であり、スポーツ三昧の日々ですね。日本代表の予選はプールDです。第4戦は10月8日を予定しています。

こちらの経済効果についても、2019年の経済効果は総額6,464億円(4,309百万ポンド)に及ぶとされています。これも大会史上最高額であり、経済効果のうち54%をもたらしたのが訪日客の消費であり、24万人の来日者が長期に滞在することも大きな要因だったとのこと。

とにかくコロナ禍が落ち着いて、本格的に経済活動が復活しつつあることは喜ばしいことですね。